



2025年3月期 第2四半期 決算説明資料

2024年12月3日

油研工業株式会社
代表取締役社長 永久秀治

東証スタンダード：6393



2025年3月期 第2四半期決算・通期見込

- 2025年3月期 第2四半期決算
 - ・ 日本・中国・インド市場が堅調に推移、前年同期比で増収増益で着地
 - ・ 8月9日開示の業績予想比では売上高△1.5%、純利益+14.0%
- 2025年3月期 通期見込
 - ・ 業績進捗、足もとの業況を勘案し、各段階利益予想を上方修正
 - ・ インド市場の需要取り込み、中国市場の回復により、増収増益を見込む
 - ・ 配当は期初予想の105円/株から、25円増配し、130円/株へ増配修正

中期経営計画 ～2025年3月期

- 2025年3月期までの3カ年
 - ・ 積極的な設備投資と体制整備を行い、2026年3月期以降の次期中計において利益成長を実現するための基盤を作り、足固めをする期間
- 2028年3月期達成目標
 - ①売上高 350億円 ②営業利益・経常利益 30億円 ③ROE 8%以上
- インドの成長の取込み、グループ内生産拠点の連携強化、グローバル戦略製品の市場投入を成長ドライバーとして成果を発揮し、次のステージへ



目次

- I. 会社概要**
 - II. 2025年3月期 第2四半期決算の概要**
 - III. 2025年3月期 通期予想**
 - IV. 長期ビジョン (YUKEN GROUP VISION 2030)**
 - V. Appendix**
-



- I. 会社概要**
- II. 2025年3月期 第2四半期決算の概要
- III. 2025年3月期 通期予想
- IV. 長期ビジョン (YUKEN GROUP VISION 2030)
- V. Appendix



油圧の特長

- ・油圧は、機械や装置の作動と制御をつかさどる駆動方式の一つ
- ・伝達動力の大きさとその密度の高さ、制御の柔軟性、応答性の高さ等を利点に、工場で稼働する様々な機械や建設機械に使用
- ・一般的に電動に対し、イニシャルコストが安い、応答性が高い、省スペース、力が強い、寿命が長い、等の特性あり

油圧製品

- ・油圧を利用するための各種機器
- ・圧力を発生させる油圧ポンプ、仕事の3要素（圧力・流量・方向）を制御する各種バルブ等で構成

主要製品

- ①油圧ポンプ・モータ
- ②油圧制御弁
- ③各種油圧制御機器

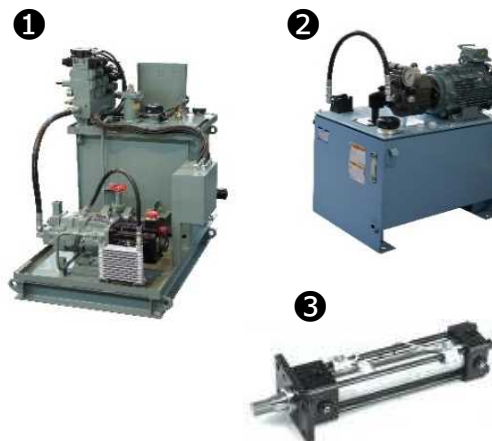


システム製品

- ・各種油圧機器や電動機、附属機器類を最適な形で組み合わせた油圧装置（＝油圧ユニット）
- ・ポンプから供給される流体エネルギーを直線往復運動に変換するシリンダ

主要製品

- ①産業機械油圧システム
- ②標準油圧ユニット
- ③油圧シリンダ

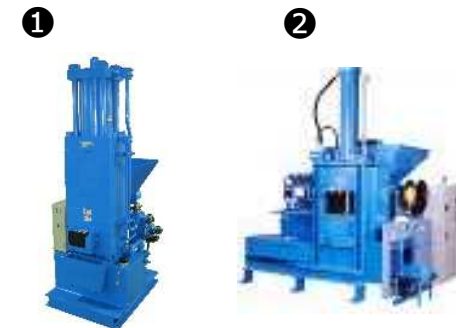


環境機械

- ・油圧事業のユーザと競合しない分野の油圧駆動機械
- ・1990年代以降の環境問題への関心の高まりに対応し、リサイクルなど環境負荷低減に貢献

主要製品：

- ①自動切屑圧縮機（KIRIKO）
- ②自動PETボトル減容機



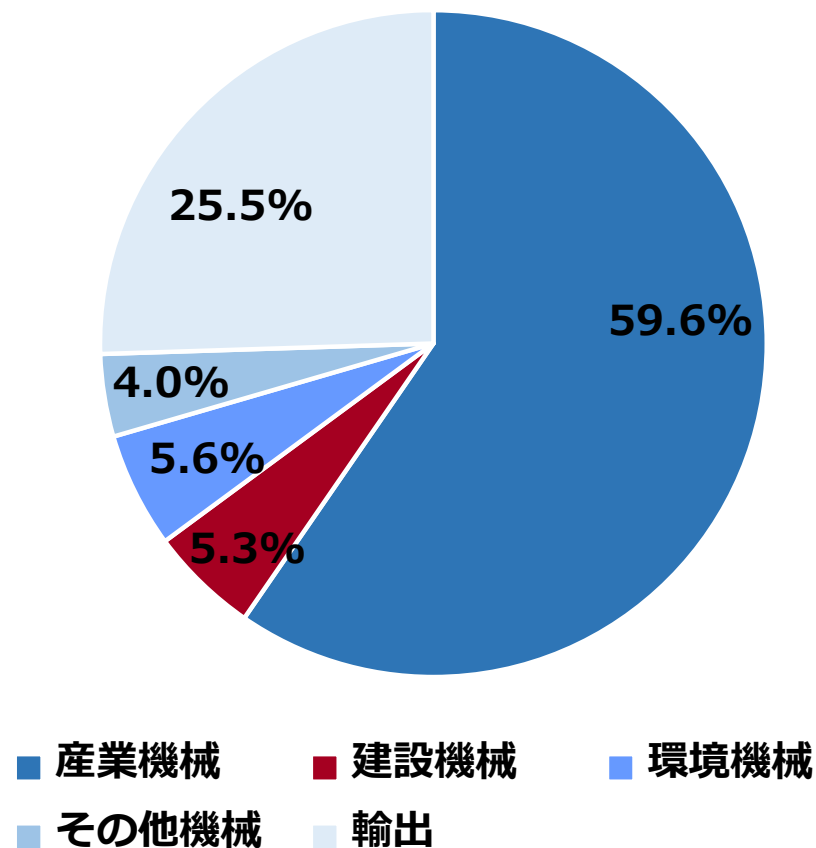
需要分野の特長

- 工作機械・射出成形機などの産業機械向け油圧機器が主たる需要分野
- 当社の油圧技術は、時代のニーズに応え、高圧化、大流量化及び低騒音化に始まり、電子との融合による精密化と制御性の向上や省エネルギー化、高付加価値化へと進化
- 特定の業界に依存せず、工作機械・成形機・製鉄機械・プレス機械・鋳造機械など多様な分野がユーザー

使用分野

- 工作機械
NC旋盤、マシニングセンタ、平面研削盤など
- プラスチック加工機械
射出成形機、押出成形機、ブロー成形機など
- 各種産業機械
ダイカストマシン、鋳造機、プレス機械、圧延機等製鉄機械、荷役装置など
- その他
建設機械、船舶、ダムゲート開閉、遊戯施設など

当社の単体売上構成比率
(2024年3月期)



-
- I. 会社概要
 - II. 2025年3月期 第2四半期決算の概要**
 - III. 2025年3月期 通期予想
 - IV. 長期ビジョン (YUKEN GROUP VISION 2030)
 - V. Appendix



2025年3月期 第2四半期 実績サマリー

前年同期比増減

単位：百万円

	2024年3月期 第2四半期 実績	2025年3月期 第2四半期 実績			
			増減率	2024年8月予想	予想比
売上高	13,869	15,654	+12.9%	15,900	△1.5%
営業利益	436	698	+60.2%	700	△0.3%
経常利益	546	758	+38.8%	800	△5.3%
純利益	357	456	+27.8%	400	+14.0%

(注1) 純利益は親会社株主に帰属する中間純利益

(注2) 為替期中平均レート（'25/3期上期実績） 1USD = 152.3円

売上高

- 中国市場の回復と、堅調な日本、インド市場に支えられ、売上高は前年同期比12.9%の増収
- 24年8月時点予想比では、インド子会社の売上が若干見込みに達成せず、未達に

利益

- 営業利益：日本、中国、インド市場の売上増と、売上原価削減による粗利改善により増益を確保
- 経常利益：円安基調が継続したことによる差益効果が経常利益を押し上げ
- 純利益：前年同期比27.8%増、24年8月時点予想比14.0%増となる456百万円を確保

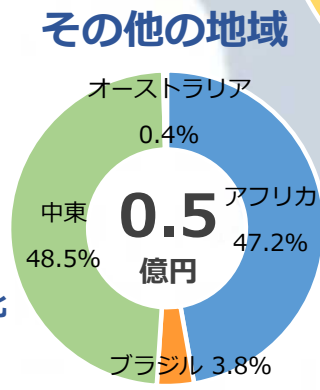
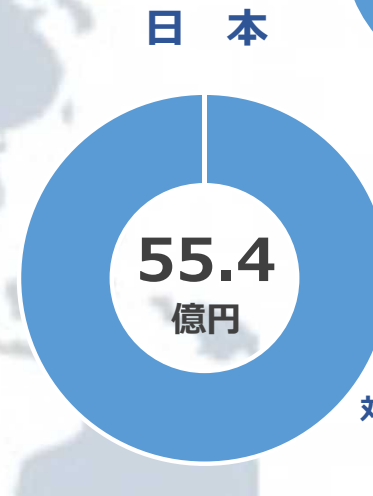
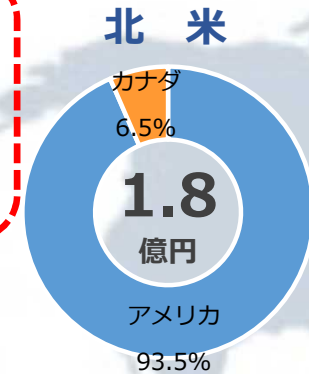
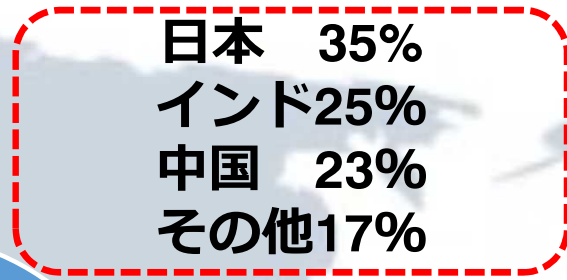
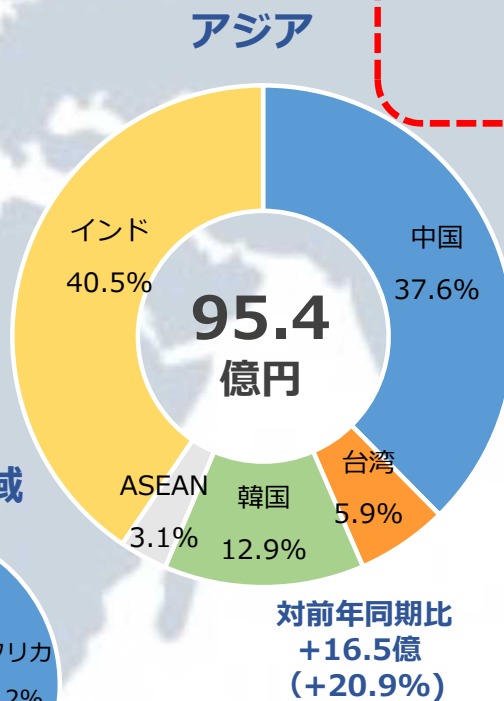
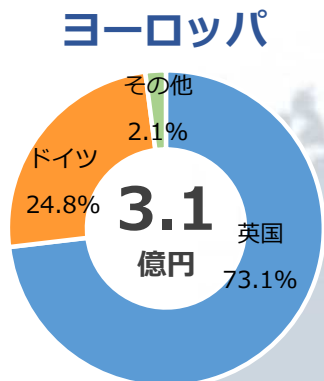


2025年3月期 第2四半期 地域別売上高

地域別売上高（連結消去後）

単位：百万円

合計	日本	アジア	北米	ヨーロッパ	その他
15,654	35.4%	61.0%	1.2%	2.0%	0.4%
5,546	9,549	187	311	58	

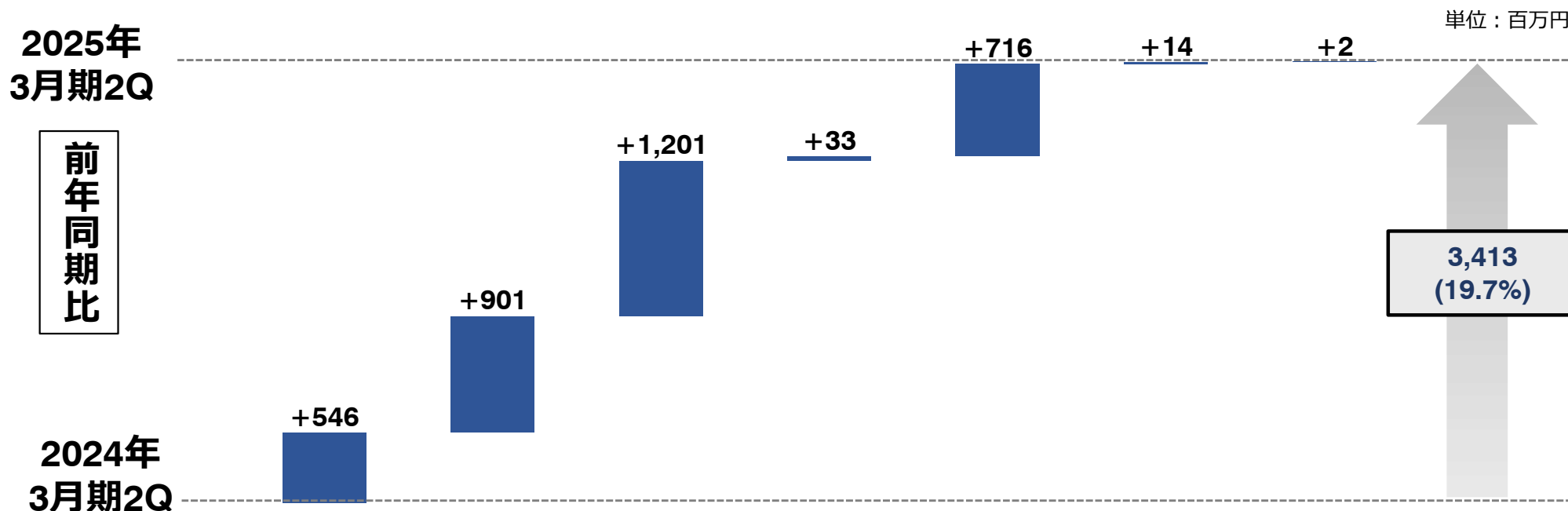


※売上高は顧客の所在地を基礎とし国または地域に分類しております
※円グラフの中心は各地域における売上高を表しております



2025年3月期 第2四半期 所在地別売上高

(ご参考：連結消去前)



	日本	中国	台湾	韓国	インド	アセアン	欧州	合計
2024年3月期 第2四半期	7,392	3,527	1,852	1,113	2,870	280	272	17,306
2025年3月期 第2四半期	7,938	4,428	3,053	1,146	3,586	294	274	20,719
増減	+546	+901	+1,201	+33	+716	+14	+2	+3,413

(注) 日本は油研工業(株)・(株)ユケンサービス、中国は油研(上海)商貿有限公司・油研(仏山)商貿有限公司・油研液圧工業(張家港)有限公司・油研工業(香港)有限公司の売上高の合計



2025年3月期 第2四半期 経常利益増減要因

主な前年同期比増減要因（経常利益）

売上高増加

- 中国市場回復に伴う台湾製造子会社、中国販社の売上増と、インド市場の伸長、堅調な日本市場が支え

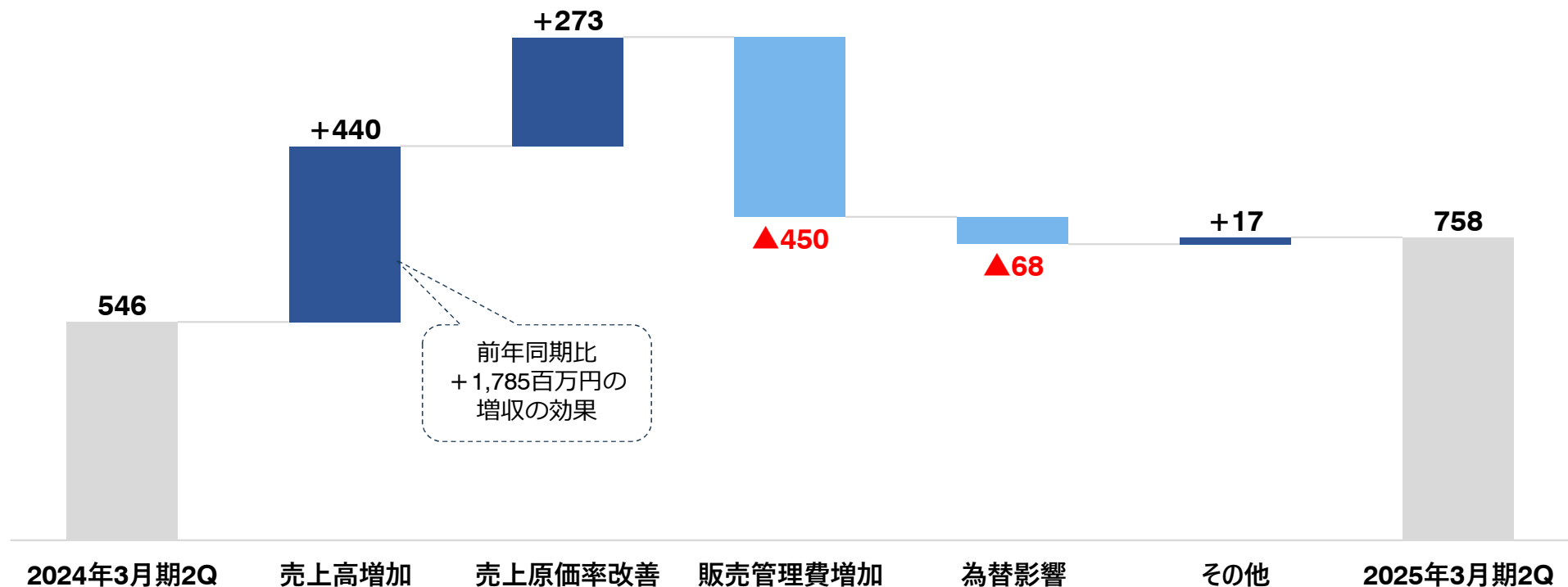
売上原価率改善

- 販売価格の値上げおよび内製化等製造コスト削減効果

その他

- 人件費の上昇、事業諸活動費用の増加と、為替差益の減少

単位：百万円



2025年3月期 第2四半期 連結貸借対照表

	2024年3月期	2025年3月期 第2四半期	増減
資産の部			
流動資産	28,057	28,056	△0
固定資産	15,193	15,384	+190
資産合計	43,251	43,441	+189
負債の部			
流動負債	11,336	11,162	△174
固定負債	6,080	5,981	△98
負債合計	17,417	17,143	△273
純資産の部			
株主資本	18,471	18,364	△107
その他包括利益累計額	3,812	4,461	+649
非支配株主持分	3,550	3,471	△78
純資産合計	25,834	26,297	+463
負債純資産合計	43,251	43,441	+189

- 資産の部 : 売上債権△200百万円、有形固定資産+379百万円、投資有価証券△398百万円
- 負債の部 : 借入金△170百万円
借入金残高 短期借入金3,807百万円、長期借入金2,699百万円、計6,506百万円
- 純資産の部 : 株主資本△107百万円（内、利益剰余金+48百万円、自己株式△150百万円）
その他包括利益累計額+649百万円（内、為替換算調整勘定+854百万円）



2025年3月期 第2四半期 連結キャッシュ・フロー計算書

単位：百万円

	2024年3月期 第2四半期	2025年3月期 第2四半期	増減
営業活動による キャッシュ・フロー	1,458	1,155	△302
投資活動による キャッシュ・フロー	△490	△647	△156
財務活動による キャッシュ・フロー	194	△730	△925
現金及び現金同等物に 係る換算差額	△34	399	+433
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	1,128	177	△950
現金及び現金同等物の 期首残高	4,950	6,064	+1,114
現金及び現金同等物の 期末残高	6,079	6,242	+163

- 営業CF：税金等調整前中間純利益758百万円、売上債権減少457百万円、仕入債務減少260百万円、減価償却費635百万円
- 投資CF：有形固定資産取得による支出697百万円
- 財務CF：自己株式取得による支出150百万円、配当金支払404百万円



-
- I. 会社概要
 - II. 2025年3月期 第2四半期決算の概要
 - III. 2025年3月期 通期予想**
 - IV. 長期ビジョン (YUKEN GROUP VISION 2030)
 - V. Appendix

2025年3月期 予想サマリー

前期比増減

単位：百万円

	2024年3月期 実績	2025年3月期 予想		
			増減額	増減率
売上高	29,511	32,500	+2,989	+10.1%
営業利益	1,378	1,650	+272	+19.7%
経常利益	1,603	1,750	+147	+9.2%
純利益	785	1,000	+215	+27.3%

(注1) 純利益は親会社株主に帰属する当期純利益

(注2) 為替レート 1USD=152.3円('25/3期上期実績)、145円('25/3期下期想定為替レート)

売上高

- インド市場は引き続き堅調に推移し、グループの牽引役に
- 中国顧客の在庫消化の進展で台湾生産は回復し、中国販社の販売も堅調を予想
- 日本市場も緩やかな景気回復傾向が続き増収を見込む

利益

- 原材料価格の上昇の影響は継続するが、売上増加や内製化推進等の製造原価低減策の実行で営業利益を確保
- 下期想定為替レートはドル円で145円。経常利益を押し上げ
- マーケット状況、原材料等の変動状況、競合他社動向等を睨み、必要に応じて再値上げも検討



世界経済

- まだら模様ながら、緩やかな成長軌道に

日本

- 需要分野では工作機械、建設機械は減少傾向、射出成形機は底打ち

中国

- 顧客の在庫消化が徐々に進展しており、この状況が継続すると予想
- 政府の経済対策は限定的で、大幅な景気回復は現状期待薄。不動産底入れ見えず

インド

- 全般的には引き続き堅調な経済成長が持続するため、増産体制を継続
- 工作機械・建設機械・ゴム成形・エネルギー分野で旺盛な需要が継続

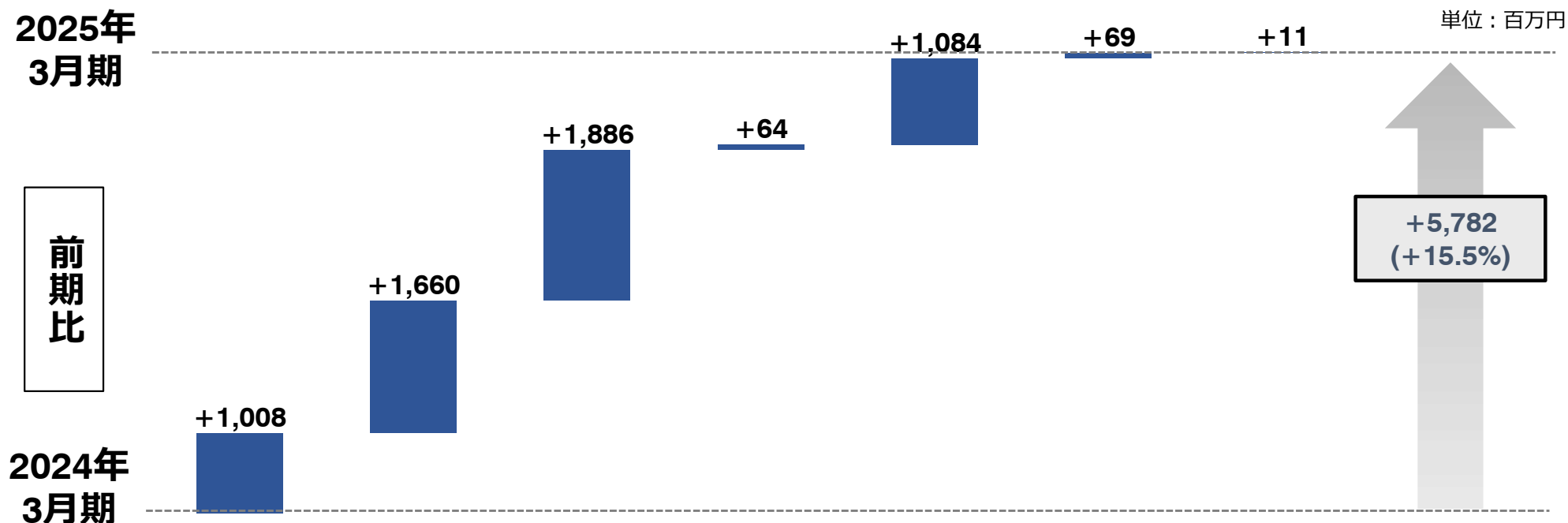
その他

- 台湾は台湾地域は低迷も、中国顧客の在庫消化進展で回復途上
- 韓国・アセアン・欧州は現状維持



2025年3月期通期予想 所在地別売上高

(ご参考：連結消去前)



	日本	中国	台湾	韓国	インド	アセアン	欧州	合計
2024年3月期	15,973	7,342	4,298	2,097	6,386	570	551	37,217
2025年3月期	16,981	9,002	6,184	2,161	7,470	639	562	42,999
増減	+1,008	+1,660	+1,886	+64	+1,084	+69	+11	+5,782

(注) 日本は油研工業(株)・(株)ユケンサービス、中国は油研(上海)商貿有限公司・油研(仏山)商貿有限公司・油研液圧工業(張家港)有限公司・油研工業(香港)有限公司の売上高の合計



設備投資・減価償却の実績と計画

単位：百万円

	2023年3月期（実績）	2024年3月期（実績）	2025年3月期（予想） （下段2Q実績）
設備投資額	1,798	1,611	2,485 (830)
減価償却費	1,110	1,201	1,300 (635)

2025年3月期の設備投資の内容

地域	投資額 （下段2Q実績）	投資内容
日本	1,140 (432)	生産能力増強、省人化、老朽化更新、環境改善、サステナビリティ対応
海外	1,345 (397)	台湾：部品内製化、老朽化更新
		インド：製造品質向上、設備の自動化、研究開発投資
		中国：生産性向上、老朽化更新、環境改善



2025年3月期 経常利益増減要因

主な前期比増減要因（経常利益）

売上高増加

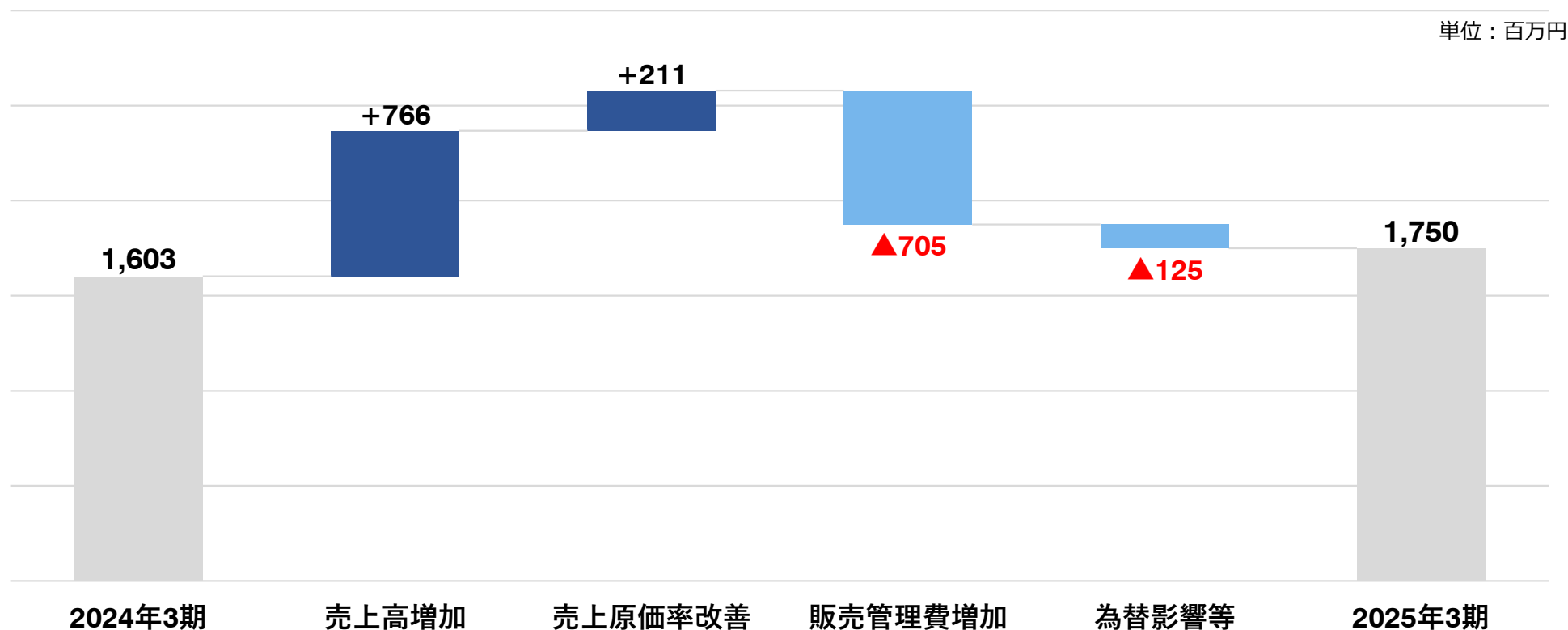
■ 中国市場の回復、堅調なインド市場と日本市場の売上増加

販売管理費

■ 人件費増、事業諸活動費用の増加等

その他

■ 為替差益の減少、支払利息の増加等

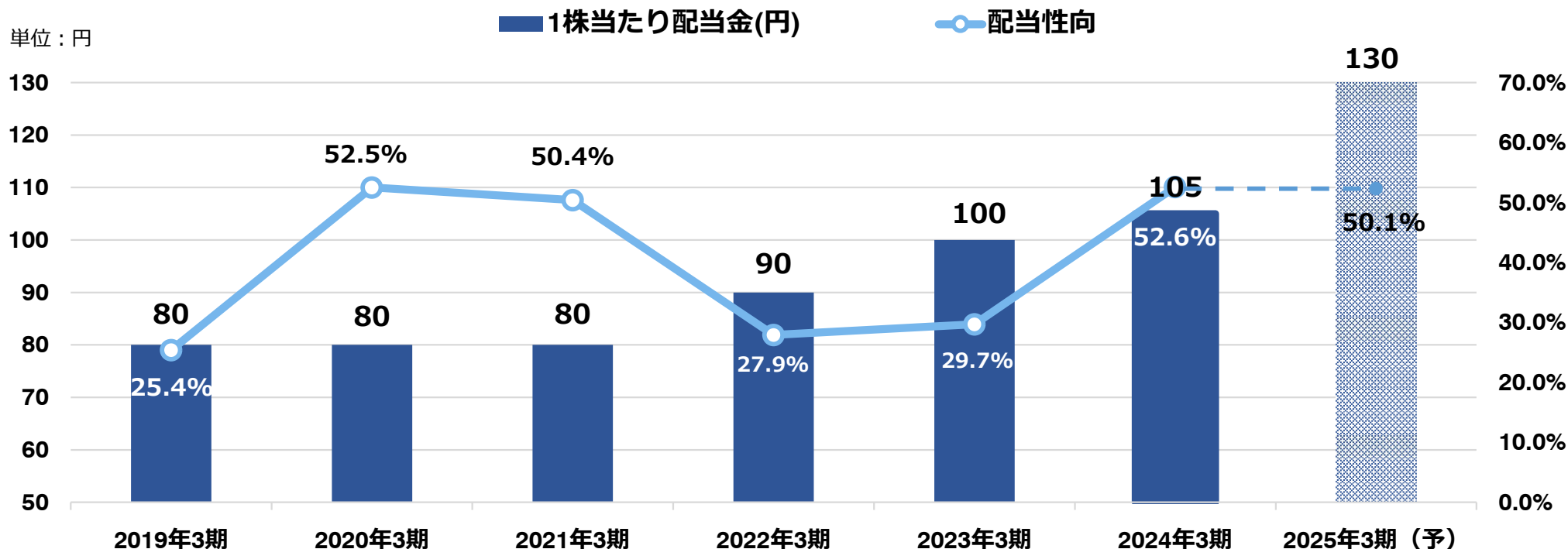


資本政策

- ① 配当政策 … 配当性向50%程度を基準とする
(基本方針「安定的な配当の継続」)
- ② 自己株取得 … 総還元性向70%を目途に自己株取得を実施
2024年3月期実績 (取得株式総数141,500株、取得総額約3億円)
2025年3月期実績 (取得株式総数64,300株、取得総額約1.5億円)

配 当

2025年3月期 期末配当予想 1株につき130円 配当性向50.1%



-
- I. 会社概要
 - II. 2025年3月期 第2四半期決算の概要
 - III. 2025年3月期 通期予想
 - IV. 長期ビジョン (YUKEN GROUP VISION 2030)**
 - V. Appendix

経営理念

『Living with Hydraulics』 ~油圧と共に生きる~

油研グループは「油圧と共に生きる」を経営理念として、顧客のニーズに寄与する価値を創造・提供していくことを使命とし、グローバルサプライヤーとして広く産業の発展に貢献していく企業であり続ける

ありたき姿

これから100年、油圧専門メーカーとして
品質と信頼で社会に貢献する真のグローバル企業

－ 真のグローバル企業の定義 －

1. 全世界に認知されるブランド力を保有する企業
2. グローバル製造業として最適な供給体制を保有する企業
3. ESGを意識した経営を積極的に行い社会に貢献する企業
4. ステークホルダーから信頼される企業



サマリー

私たち油研グループは現状を取り巻く環境とこれまでの反省を踏まえ、2030年までの中長期ビジョンを策定しました。2022年度~2030年度を3年ごとの3ステップとし、ステップごとの到達目標を定めました。最終ステップは数値化せず目指すべき姿に留めています。

第3期 (Step 3) 真のグローバル企業への進化

2028~30
Step3

★ 挑戦による事業の拡大

- ① 新たな市場（航空宇宙、水圧等）への挑戦
- ② 新たな事業（油圧ロボット等）への挑戦
- ③ 未開地への油圧技術浸透に挑戦

第2期 (Step 2) 成長戦略の実践

2025~27
Step2

★ 拡大による利益率向上

- ① 高収益市場でのシェア拡大
- ② 再投資による最先端化製品の拡大
- ③ 環境に配慮した製品群の拡大

第1期 (Step 1) ありたき姿への基盤作り

2022~24
Step1

★ 投資と再編による基盤作り

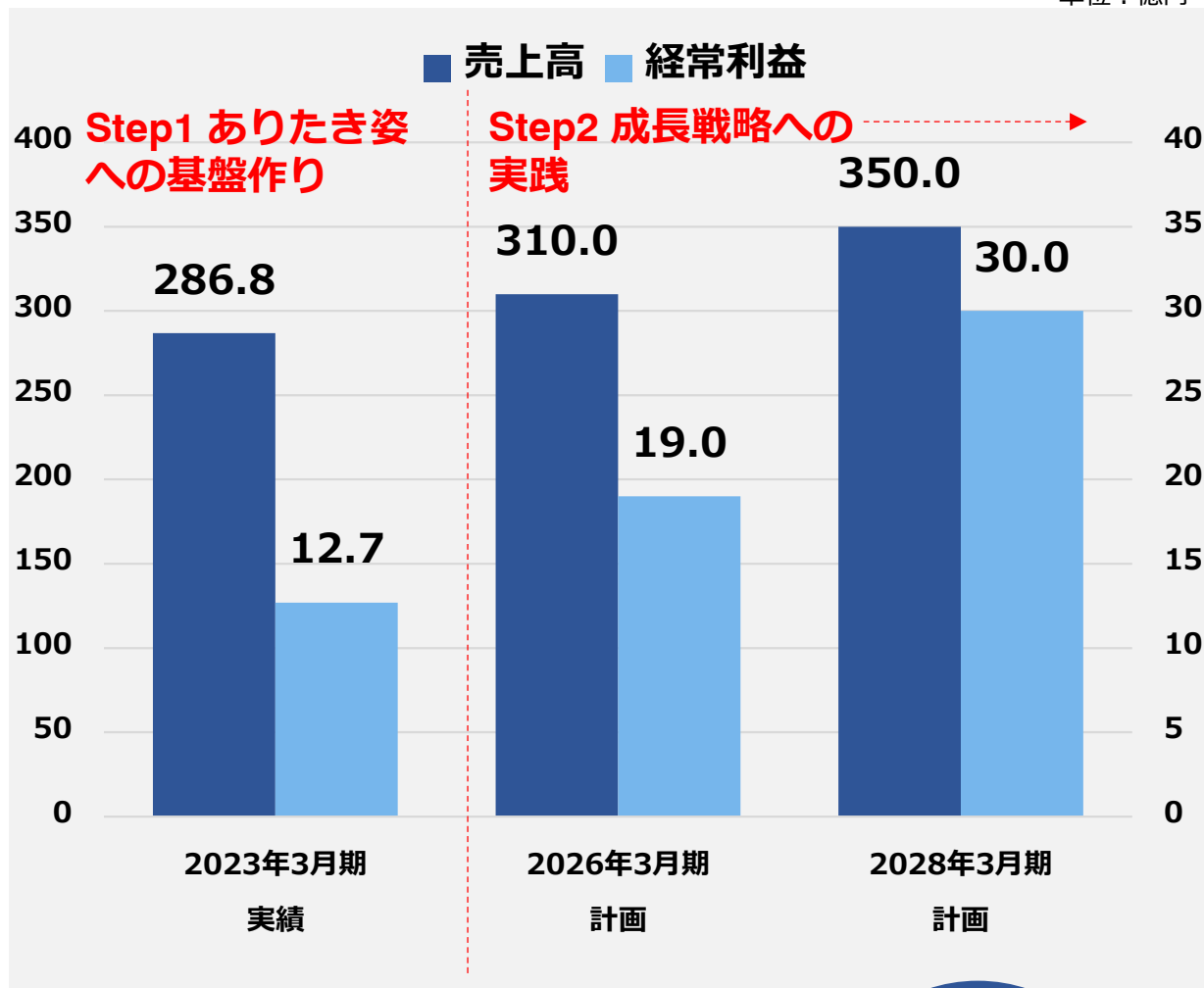
- ① 工場・製品の最先端化に向けた積極的な投資
- ② 品質・供給量を担保したサプライチェーン構築
- ③ 新たな基盤を支える本社機能の再編
- ④ 全てを支える人の多様化推進と組織再編



中長期的な企業価値向上のための施策

収支計画・重点施策

単位：億円



成長戦略

- ① グループ連携強化
(グローバルサプライチェーン (GSC) 構想の実現)
- ② インド成長力の取込み
- ③ 次世代型主力製品開発

収益力の強化

- 事業の選択と集中
- グローバル調達の展開
- 標準機器事業の強化

ROE

6.7%

6.0%

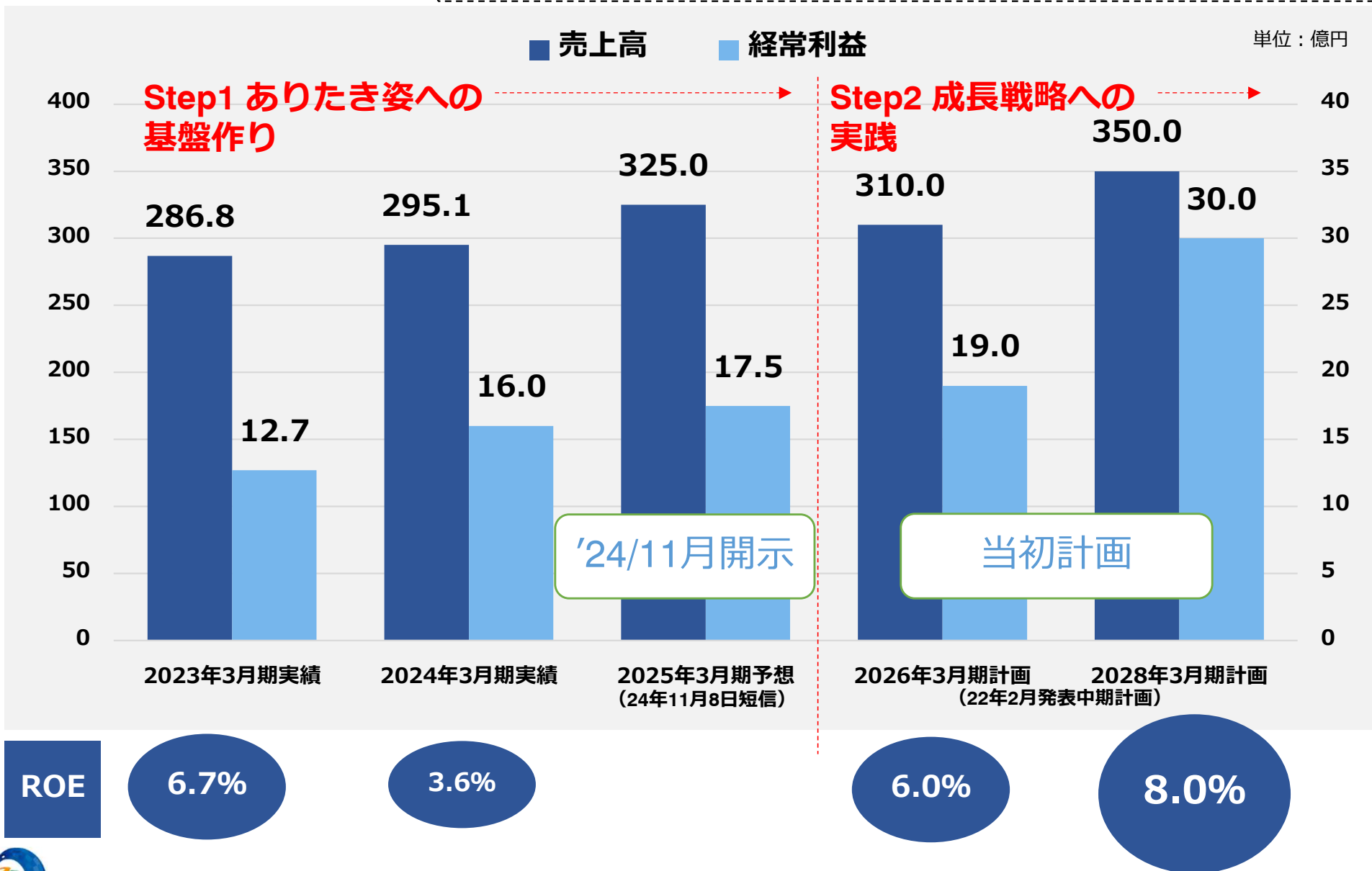
8.0%



中長期的な企業価値向上のための施策（進捗状況）

売上・収支の実績と計画

2025年3月期はStep1の最終年度。足下、売上は順調に進捗。Step2に向けグループ連携強化（グローバルサプライチェーン（GSC）構想の実現等）による収益性向上に注力中。（中期経営計画最終年度につき、足下の状況を踏まえ、計画の見直しを実施の予定）



長期ビジョン実現のための成長戦略

1) グローバルサプライチェーン（GSC）構想の実現

- ・ 国内外生産拠点の最適生産分担化によるグループ生産能力の引き上げ
 - 油研工業本社工場から台湾、インド、張家港へ一部製品移管を推進中（40品目）
⇒生産・物流オペレーションコストの効率化
 - 油研工業本社工場の高付加価値化
⇒マザー工場としての機能へシフト（生産技術、開発、マネジメント）
- ・ グループ内での部材部品の内製化、共通化による供給能力向上とコスト削減

2) インドの成長力を取り込み

- ▶ 2023年6月に生産設備増強を目的に629百万INR（12.8億円）の増資実行
- ▶ 鋳物、中核部品製造を軌道化させつつあり、グループ内供給の最終準備段階
- ▶ 2028年3月期までに総額20億円をインドの設備増強投資に充てる予定
- ▶ 有望な建設機械、農機機械等のモビリティ市場に本格参入するための体制構築



長期ビジョン実現のための成長戦略

3) 主力製品の次世代機種の開発、市場投入

- ・ DSG-01/電磁弁の業界最高水準グローバル機種の開発
- ・ 2025年度中に開発を終了し、2026年度に日本、インドで生産、市場投入を予定
- ・ 高機能、均質、短納期、低消費電力、低圧損化による省エネルギー性の向上
- ・ 製造3拠点での並行生産による短納期化と生産能力アップ

4) クロスボーダー案件を中心に買収、提携を模索



財務戦略

中期経営計画の着実な実行と株主還元策の強化によるバリュエーションの改善、投資家への開示充実と対話促進により、資本コストを意識した経営を実践

〈2024/3期～2028/3期の財務戦略とキャッシュ・アロケーション〉

営業CF 100億円	株主還元 40億円	<ul style="list-style-type: none"> ■ 配当性向：50%程度 ■ 自己株式取得 総還元性向70%を目途に純利益の20%程度の自己株式取得（5年間で13億円程度）
有価証券売却 10億円	設備投資 80億円	<ul style="list-style-type: none"> ■ グローバルサプライチェーン（GSC）構想の実現 製造移管、グローバル戦略製品投入 ■ 国内外設備投資の強化 袋田工場改築、自動化促進、部品内製化 ■ 環境変化への対応 サステナビリティ・デジタル化への対応
有利子負債 50億円	インド油研 成長支援 20億円	<ul style="list-style-type: none"> ■ 生産能力の増強 ■ ガバナンスの強化 ■ 人的・資金的連携強化
	開発投資 20億円	<ul style="list-style-type: none"> ■ 次世代型グローバル製品の開発 ■ 開発機能の強化 ■ グローバル製品の拡充

中計最終年度にROE8%以上、PBR1.0倍の実現を目指す



-
- I. 会社概要
 - II. 2025年3月期 第2四半期決算の概要
 - III. 2025年3月 通期予想
 - IV. 長期ビジョン (YUKEN GROUP VISION 2030)
 - V. Appendix**

会社概要

会社名	油研工業株式会社
本社所在地	神奈川県綾瀬市上土棚中四丁目4番34号
設立年月日	1956年10月10日
資本金	41億910万円
上場区分	東証スタンダード（コード：6393）
従業員数	連結1,252名、単体360名
代表者	永久 秀治
事業内容	油圧製品、油圧システム製品、環境機械の開発・製造・販売
国内製造拠点	本社・相模事業所、袋田工場
国内販売拠点	東京支社、大阪支社、札幌営業所、長野営業所、相模営業所、名古屋営業所、広島営業所、福岡営業所
国内グループ会社	株式会社ユケンサービス、株式会社北陸油研
海外グループ会社	油研（上海）商貿有限公司、油研（仏山）商貿有限公司 油研液圧工業(張家港)有限公司、油研工業（香港）有限公司 台湾油研股份有限公司、韓国油研工業株式会社 YUKEN INDIA LIMITED、YUKEN SEA CO., LTD. YUKEN EUROPE LIMITED、Yuken North America Corporation

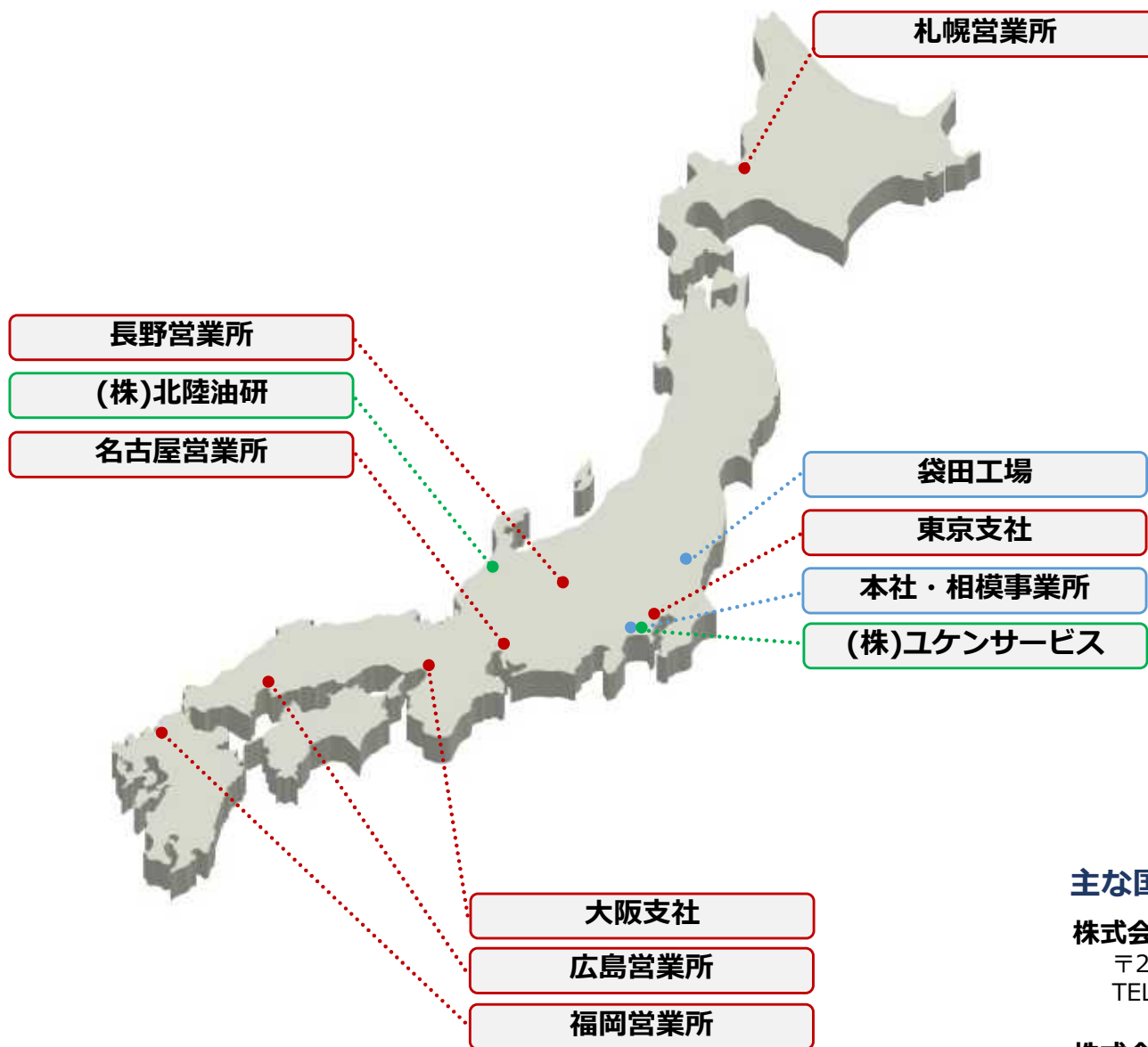


代表取締役社長 永久秀治

(2024年3月末現在)



- = 販売会社
- = 生産拠点
- = 関係会社



袋田工場



本社・相模事業所



主な国内関係会社

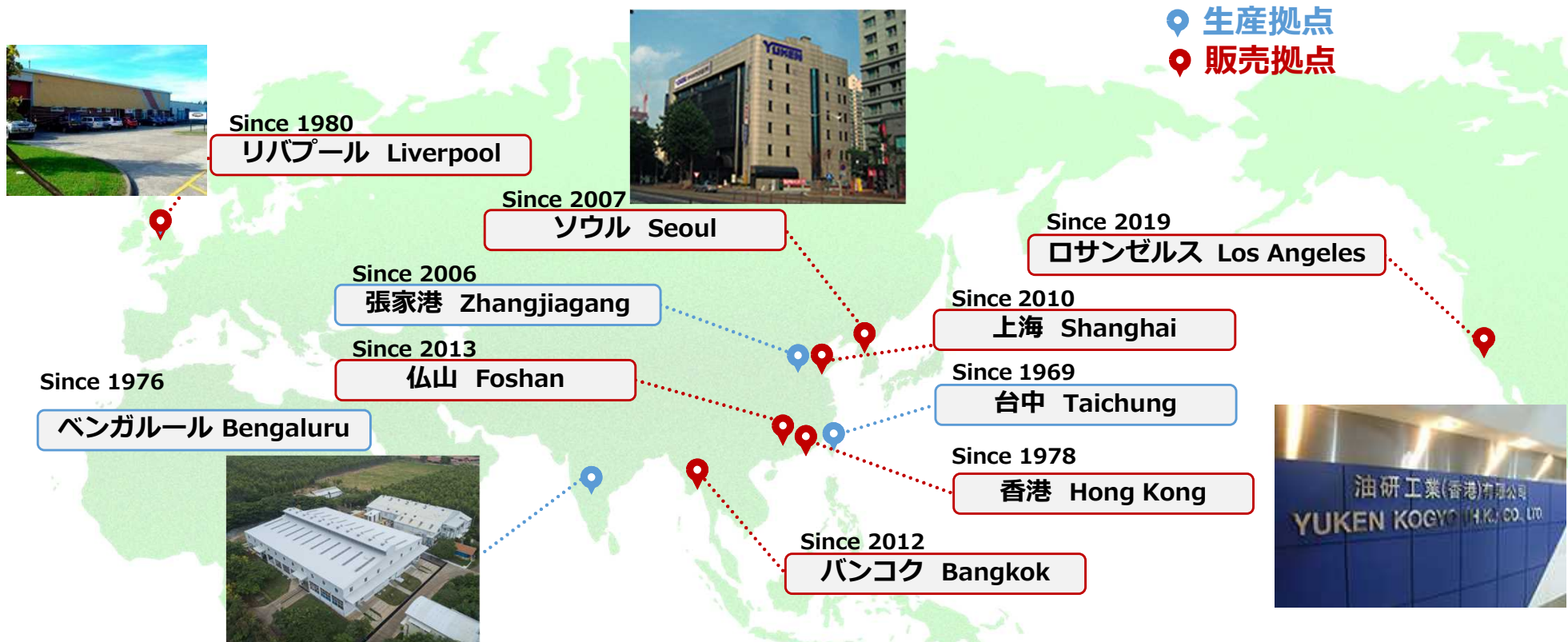
株式会社 ユケンサービス

〒252-1113 神奈川県綾瀬市上土棚中四丁目4番34号
TEL : 0467-77-0101 FAX : 0467-77-5005

株式会社 北陸油研

〒920-0059 石川県金沢市示野町西117
TEL : 076-268-9779 FAX : 076-268-9177





製造拠点	バルブ	ポンプ	ユニット	環境機械	販売地域	バルブ	ポンプ	ユニット	環境機械
本社・相模事業所	●	-	●	●	日本	●	●	●	●
袋田工場	-	●	-	-	中国	●	●	●	●
台湾	●	●	●	-	インド	●	●	●	●
中国	●	●	-	-	その他アジア	●	●	●	●
インド	●	●	●	●	欧米	●	●	●	-
					その他	●	●	●	-

※円の面積は正確な取扱高ではなく、イメージとしてご認識下さい



拠点設立

1929 結城工作所として創業

1929

1945 茨城・袋田工場を新設

1940

1956 油研工業株式会社に改組

1950

1969 台湾油研股份有限公司を設立

1960

1970 神奈川・綾瀬に相模工場を新設

1970

1976 YUKEN INDIA LIMITEDを設立

1978 油研工業（香港）有限公司を設立

1980 YUKEN EUROPE LIMITEDを設立

1980

2004 本社・藤沢工場を相模事業所に統合

2000

2006 油研液圧工業(張家港)有限公司を設立

2007 韓国油研工業株式会社を設立

2010 油研（上海）商貿有限公司を設立

2010

2012 YUKEN SEA CO., LTD.を設立

2013 油研（仏山）商貿有限公司を設立

2019 Yuken North America Corporationを設立

2020

1940 ベーンポンプの国産化に成功

商品開発



ベーンポンプ



DSG-01 電磁弁



EHシリーズ

1978 直動形電磁弁Kシリーズ販売開始（主力製品）
（日刊工業新聞10大新製品賞受賞）

1987 EHシリーズが機械振興協会賞を受賞
（射出成形機市場向けに開発）



LSV(H)Gシリーズ

2001 高速リニアサーボ弁
LSV(H)Gシリーズ発売（電気-油圧技術の融合）

2008 ASR シリーズAC サーボモータ駆動ポンプ発売
（省エネルギー製品）



ASRシリーズ



A3HMシリーズ

2020 A3HMシリーズ高圧可変ピストンポンプ発売
（建設機械・車両用）



台湾台中市



中国江蘇省張家港市



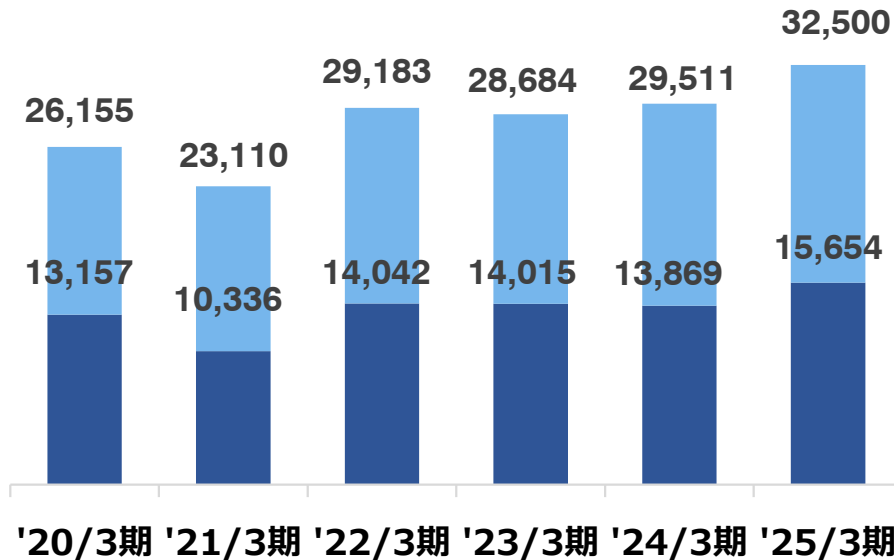
業績推移

※25/3期通期の各数値は11月8日東証発表の予想数値を記載

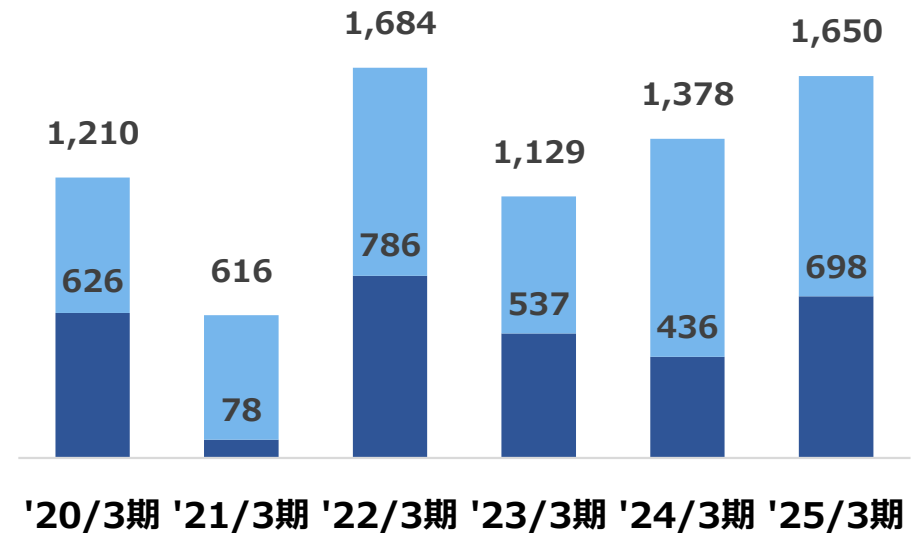
単位：百万円

■ 第2四半期 ■ 通期

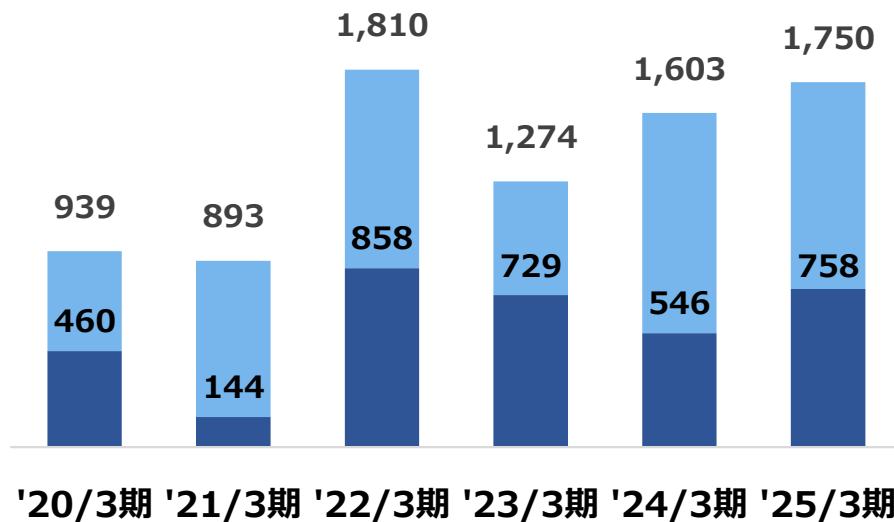
売上高



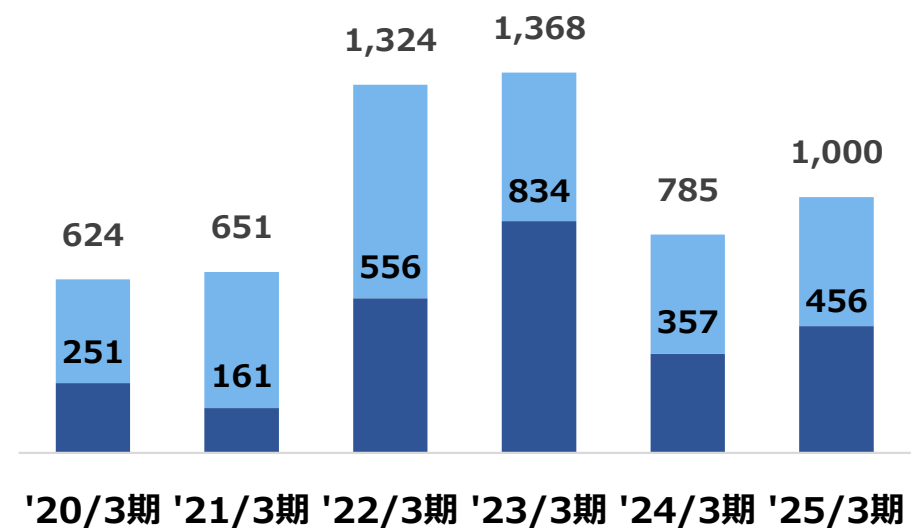
営業利益



経常利益



親会社株主に帰属する四半期（当期）純利益



グローバルサプライチェーン(GSC)構想の実現

グループ連携強化によるシナジー発揮

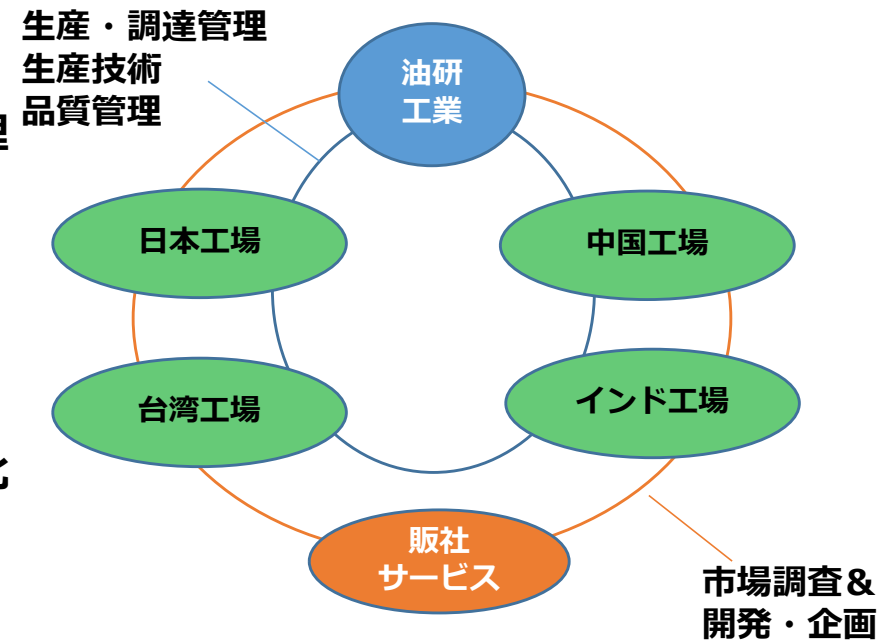
適材適所、相互供給、情報連携、グループ統制により効果的行動の迅速化

1 生産拠点連携によるシナジー

- ① 油研工業をコントロールタワーとする生産管理
- ② 地の利を活かした生産体制
- ③ 拠点間相互供給による納期・コストの最適化

2 グループ連携によるシナジー

- ① 販社も含めた情報統制による生産計画の最適化
- ② 組織的市場調査による開発計画の最適化
- ③ 組織的販売戦略による市場浸透の深化



成長戦略 ②インド市場の取込み

インドのグループ会社概要

会社名	YUKEN INDIA LIMITED
所在地	Bengaluru INDIA
設立	1976年
資本金	130百万インドルピー（油研工業持株比率44.62%） ～インド国立証券取引所上場
従業員数	約500名
関係会社	子会社3社、関連会社2社（鋳物、部品、モータ製造）
主要製品	油圧製品、システム製品、環境機械

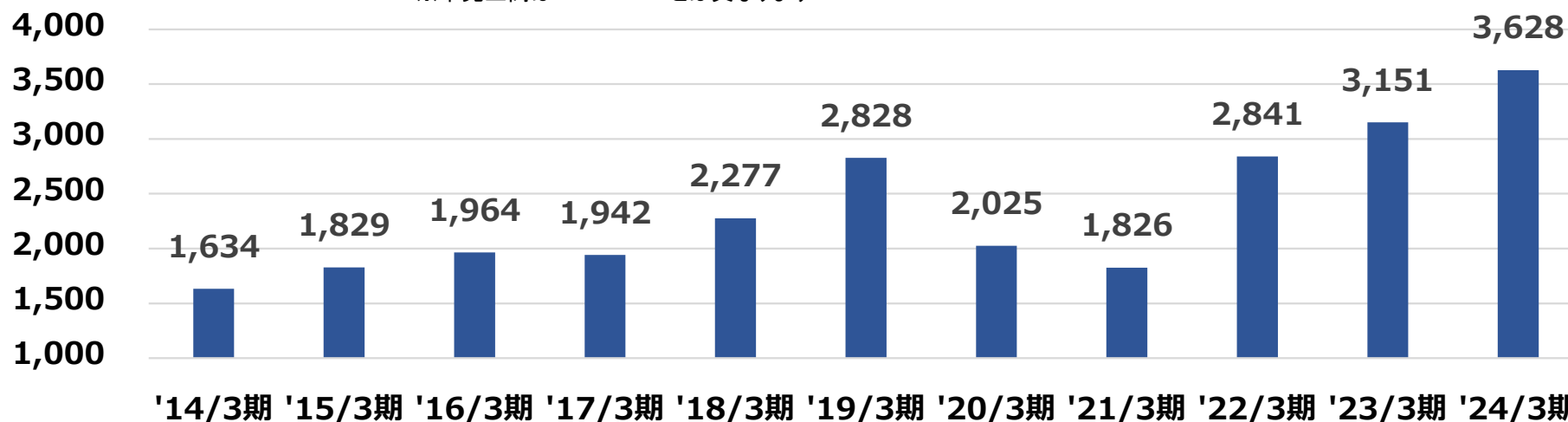


新標準機器工場

売上高推移（期別）

単位：百万INR

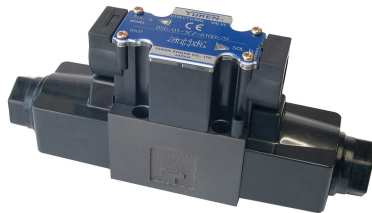
※本売上高はNet Incomeとは異なります



次世代型グローバル製品の開発

近未来の世界要求に合致

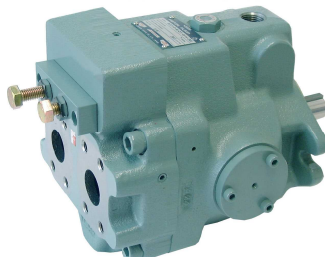
1 DSG-01 Series 1/8口径電磁切換弁



日本、台湾、インドの3拠点で生産。
2026年3月期の市場投入を目指す。

- ① 納期対応力を“強み”とした世界シェア（世界販売台数）の増加
- ② 原産地格差の無い業界最高水準のグローバル機種開発と市場投入

2 A Series 可変ピストンポンプ



高圧、高効率を兼ね備えた、世界の主流ポンプを目指す。
2025年3月期までに計画を立案し、早期市場投入を目指す。

- ① 母機への適合性と環境対応に配慮した高効率ピストンポンプの開発
- ② 生産から廃却まで配慮の行き届いた製品を追求

油圧機器需要部門別出荷額見通し

単位：百万円

	22年度実績			23年度実績			24年度見通し（10月時点）		
		構成比 (%)	前期比 (%)		構成比 (%)	前期比 (%)		構成比 (%)	前期比 (%)
土木建設機械	168,676	43.5	+4.5	163,262	46.9	△3.2	156,190	43.6	△4.3
農業機械	7,229	1.9	+10.0	6,200	1.8	△14.2	7,100	2.0	+14.5
プラスチック機械	5,226	1.3	△12.3	4,927	1.4	△5.7	5,190	1.4	+5.3
工作機械	14,583	3.8	+15.5	12,873	3.7	△11.7	13,200	3.7	+2.5
金属一次	4,394	1.1	+19.2	4,309	1.2	△1.9	4,400	1.2	+2.1
金属二次	6,524	1.7	△6.9	6,540	1.9	+0.2	6,990	1.9	+6.9
自動車（特装車）	7,286	1.9	△1.4	7,816	2.2	+7.3	7,980	2.2	+2.1
産業車輛	8,638	2.2	△8.5	6,806	2.0	△21.2	6,620	1.8	△2.7
船舶	8,759	2.3	+14.3	9,725	2.8	+11.0	10,040	2.8	+3.2
その他	156,810	40.4	△10.5	125,917	36.1	△19.7	140,900	39.3	+11.9
輸出	129,821	33.4	△12.1	98,420	28.3	△24.2	113,050	31.5	+14.9
その他	26,989	7.0	△2.4	27,497	7.9	+1.9	27,850	7.8	+1.3
合 計	388,125	100.0	△2.3	348,375	100.0	△10.2	358,610	100.0	+2.9



（出所）日本フルードパワー工業会（2024年10月）

油圧の使用例

工作機械

鉄・アルミ・プラスチックなどの工業素材を、切削・研削・研磨などの工程を用いて所定の寸法・形状に加工する機械



【油圧使用箇所】

チャック機構：

工作機械で加工する工業素材 (ワーク) が動かないよう固定する機能 (= チャック)

ホーニング機構：

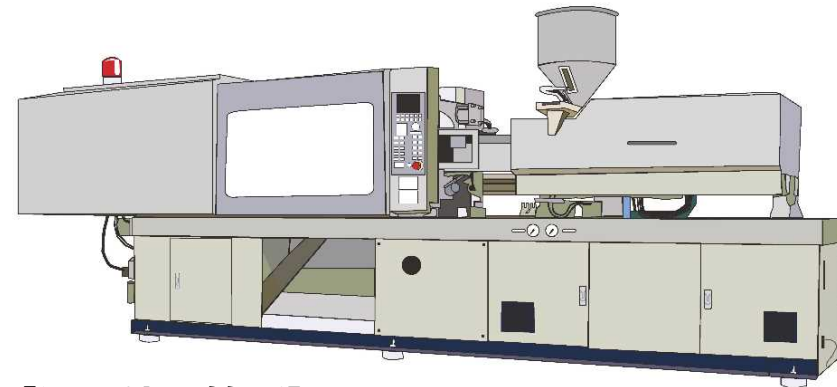
ワークの内面を精密に研磨するための回転工具の操作

研削盤テーブル送り機構：

ワークの表面を砥石で仕上げる研削盤のテーブルの往復運動の制御

射出成形機

プラスチック素材を熱で溶かし、金型に流し込んで成形する機械 (溶かしたプラスチックを高圧・高速で金型内に射出することで、複雑な形状の製品を精密かつ大量に生産)



【油圧使用箇所】

型締め： 樹脂の注入により金型が開かないよう締め付け

ノズルタッチ： 金型に樹脂を注入するためノズルを固定

射 出： 溶かした樹脂の金型への注入

保 圧： 固まるまで樹脂の圧力を保持

型開き： 固まった成形品を取り出す金型操作

突出し： 金型内成形品を取出すためのピン操作

ご質問

中期経営計画で'28/3期までにインド子会社で20億円の設備投資を行うとのことであるが、その内容を教えてほしい。

自動車のEV化や、飛行機の油圧システムがワイヤーに代わるなどの動きがありますが、10年～20年単位で、油圧業界の構造変化にはどのように対応するか教えてほしい。

欧州のニーズに高圧大容量とのコメントがあったが、その背景を教えてほしい。

ご回答

旺盛なインド市場での成長を目指すべく、インドの生産力を1.5倍にする予定。機械化を進め生産性の向上も図る。内容は、バルブ40%、ポンプ40%、工場建物15%、その他5%。バルブは高圧大容量の電磁弁の対応でインド国内への拡販の他、欧州への輸出も目指す。ポンプはインド国内の建設機械・車両向け、中国向けの射出成形機用内接ギアポンプ、インド向けの建設機械用外接ギアポンプの増強を図る。またグループの内製化を高めるべく、鋳物や中核部品の製造拡大を目指す。

油圧は成熟した技術で一部電動化となったものもあるが、油圧と電動にはそれぞれ短所と長所がある。油圧の長所はイニシャルコストが安い、応答性が高い、省スペース、力が強い、寿命が長い等があるので、すべてが電動化に取って変わられることは無く、使い分けられると考えている。環境変化への対応は、予知保全としてのIoTリンクでの遠隔監視技術の向上や、省エネルギー製品、また、北米では風力発電設備へ使われているので、脱炭素分野の強化を図りたい。自動車のEV化では車両を軽くするためボディーを薄くする必要があり、これらのプレス技術に油圧が使われており、これも強化したい。

油圧は欧米発祥で歴史的に高圧大容量の製品が使われている。今まではアジア向けが中心であったが、高圧大容量の製品にも注力することで欧州への販路も拡大したい。現在ドイツのハイダック社と情報交換、製品開発、技術提携等の業務提携をしており、同社の販売先にも当社の製品を拡販したい。



ご質問

インドへの投資について'28年3月期までに20億円とあるが、スタート時期はいつでしょうか。

今年度の設備投資は、国内外で前年度比1.5倍と意欲的に行う予定とのことだが、その内容を教えて下さい。

本社の空いたスペースで戦略製品を製造するとのお話でしたが、具体的な製品名とそれをどの程度増やすのか教えてください。

インド、中国における競争相手はどのような企業でしょうか。

ご回答

2024年3月期にインド増資を12.8億円実行済で、これが設備投資に充当されていく。インドでの設備投資20億円は4年に亘って設備投資される。（詳細は前回（'23/12）のQ&Aをご確認下さい）

インドの設備投資に加えて、今後、主力製品であるDSG-01/電磁弁を製造3拠点で製造する予定であり、それに向けた設備投資が主なもの。電磁弁自体は伝統的な製品であり、他社を大きく凌駕する差別化をするのは難しいが、当該製品は省エネルギー性が高く、複数拠点で同一製品を製造するため短納期化が図れる。また、高圧大容量であり、インド市場への投入や、欧州市場への足掛かりを狙うものである。

付加価値の高い戦略製品にはリニアサーボ弁があり、当該製品の増産を計画している。この増産については、現在、構想段階であり、レイアウト等も含めてこれからの段階。

インドにおいては、地場メーカーもあるが、欧米系が主な競争相手。インド政府の国内産業強化策があり、インドの油圧市場は拡大の方向。弊社はインドに製造拠点がおり、この油圧市場拡大は追い風となっている。また、当地は欧州に近く、欧州への輸出拠点にしていきたい。なお、インドにおいては、地産地消なので、円安は追い風になる訳ではない。

一方、中国においては、従前は地場メーカーの製品の性能が低かったため、価格が高くても競争ができていた。足下地場メーカーが実力を付け、製品の能力が向上。また価格も低く、競争環境は厳しい。



ご質問

中国において、電子部品などは中国企業は政府から補助金が出されているため低価格化が進んでおり日系を含め外資系企業も低価格での販売を強いられているが、油圧部品は如何でしょうか。

Step2の「成長戦略の実践」段階で利益水準を上げていくとのことだが、これはインドが中心なのでしょうか。

ご回答

中国における産業国家戦略（中国製造2025）の品目の中に油圧（電磁弁などのバルブ類、油圧ポンプ、油圧ユニット）も入っている。現状どの程度の補助金が出ているか、今後それがどうなるかは判らないが、補助金を原資とした低価格競争が加速する可能性はあると考えている。

インドに加え、グローバルサプライチェーン（GSC）構想の増強により、中国、台湾、アセアンでも収益性を高めていきたい。また、アメリカ子会社は未だ非連結企業であるが、米国市場が大きいので、黒字化を図り、伸ばしていきたいと考えている。

油研グループは70周年にむけ成長を続けていきます



—注意事項—

本資料に掲載されている、油研工業株式会社の業績予想など、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する独自の見通しであります。

これらは、現在入手可能な情報から得た情報をもとに当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。

そのため、様々な要因の変化により、実際の業績は、記述されている業績予想および戦略と大きく異なる可能性があることをご了承ください。

内容の正確さについては細心の注意を払っておりますが、掲載された情報の誤りによって生じた障害等に関しましては、当社は一切の責任を負うものではありませんのでご了承ください。